



自治会だより 地域の絆

第11回

●問い合わせ 協働推進係

魅力あふれる遠賀町の自治会活動から、皆さんが思わず「かわいいね!」と言いたくなる素敵なニュースをお知らせします。

駐車場のあった地区 旧停区

世帯数 141世帯
自治会加入率 88.1%
高齢化率 30.1%

遠賀町が北部の「島門村」と南部の「浅木村」に分かれていた大正時代、現在の旧停区内には島門村役場や交番などがあり、村の中心でした。旧停区は、広渡の一部でしたが、分かれて現在の旧停区となりました。「旧停」という名前は、国鉄の旧停車場が、明治時代には東寄りの旧停区内にあったことに由来します。区の行事は、新年会・敬老会などがありますが、特に敬老会は赤ちゃん(0歳児ママの会)から小学生までの区内の子どもたちが総出で祝います。また、区内に住む広渡小学校に通う児童の見守りを始めてから12年になります。最初は男女別に登校していましたが、10年前からPTAの発案で旧停公民館に集合し、そろって登校するようになりました。停車場があった頃からの伝統ある生き生きとした地区、それが旧停区です。



敬老会には赤ちゃんも参加

伝統文化を 守り続ける 老良区

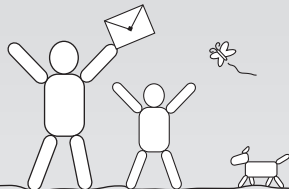
世帯数 93世帯
自治会加入率 86.7%
高齢化率 44.7%

「老良」という地名は、日本武尊が熊襲征伐の折、遠賀川で洗濯をしていた姑姫を見初め、楽しい生活を営んだことから「老楽の里」と呼び、それがいつしか「老良」となりました。



区民が力を合わせ山笠を動かす

毎年7月に開催される「老良山笠」は300年の長きにわたり続けられています。当日は大人と子どもが力を合わせて綱を引き、山笠を動かします。各家の玄関前では山笠を止め、無病息災、家内繁栄を祝して「手打ち込み」を行います。山笠の終点となる老良神社前で祭りは佳境となり、参加者全員の「わっしょい」の掛け声に合わせて山車を右、左に3度回して「手打ち込み」を行い、老良神社に奉納します。山笠は老良区民の心意気です。これからも伝統文化として引き継いで行きたいと思っています。



環境衛生だより

Environmental Hygienics

○問い合わせ 環境衛生係

もえるごみ削減にご協力を

もえるごみってどれぐらいあるのかな？

現在遠賀町は、中間市と遠賀郡4町で構成する遠賀・中間広域行政事務組合(以下「広域事務組合」という)でごみの処理を行っています。

遠賀町から出されたごみは、平成28年度の1年間で5501tが処理され、そのうち、もえるごみは5082tでした。そして、遠賀町や広域事務組合では、ごみの焼却施設を持たないため、もえるごみはすべて北九州市へ持ち込み、処理をしております。

原則、ごみは発生した自治体で処理することになっていますが、北九州市は、地域の環境保全や循環型社会の構築の観点から他市町のごみを受け入れてくれています。

そのため、北九州市への負担を増やさないためにも、もえるごみの減量に努めていく必要があります。

もえるごみを減らす取り組み

普段の生活で最も発生するごみが、もえるごみではないかと思いますが、皆さんは何をも

えるごみとして捨てていますか。

生ごみや布類、ゴム製品やビニール製品、プラスチック製品：など、色々なものももえるごみとして捨てる事ができます。しかし、よく見るとリサイクルできるものが混じっています。毎回の袋に混じっている量は少量かもしれませんが、まさに「ちりも積もれば山となる」です。一人一人がちょっとした手間をかけ、プラスチック製容器包装をプラごみとして出したり、お菓子の箱やチラシなどを集団回収で出したりすることで、町全体では、大量のもえるごみを削減できます。やがて、もつと手間かけて、生ごみを堆肥化すれば、より多くのもえるごみの削減につながります。

ごみを減らして環境を守ろう

ごみの分別は、単にごみを削減するだけでなく、資源の有効利用、さらには環境保全へとつながっていきます。

皆さんのちょっとした手間が大きな力になりますので、ご協力をお願いします。

